

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	06 01 01	中期総合計画主要施策番号	1-06	担当課	部・課	環境部環境政策課	
事業名	公害防止普及啓発事業			内線	2718		
				E-mail	kankyo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	県民、事業者、環境行政に携わる職員に対して公害防止のための知識や情報を広く普及し、公害の未然防止を図る。					
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 新たに発生した大規模な公害問題はないものの、公害苦情の件数は高い水準にある。					
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 廃棄物の不法投棄や野焼き、騒音、悪臭などの感覚公害に関する苦情が多く、身近な生活環境問題は減少していない。また、県民の環境に対する意識の高まりとともに、快適な環境に対するニーズが多様化していることも原因と考える。					
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 身近な生活環境問題を含めた公害問題の発生を防止する必要がある。 継続した公害防止対策、よりよい環境の創造のための啓発を行う。					
	事業内容	・岡谷地域公害防止計画の推進 ・環境科学研究発表会の開催 ・環境保全研修会等の開催					
実施期間	S45 ~	根拠法令等	環境基本法、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律				
成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況	評価	
	新たな公害問題の発生防止と県民や事業者の公害防止意識の高揚を図る。	・公害防止計画策定地域(岡谷市)における環境改善を図る。(岡谷市の公害防止計画はH22年度まで) ・環境科学研究発表会及び環境保全研修会(毎年)、苦情処理研修会(隔年)を開催し、事業者や環境保全担当職員等の資質向上を図る。			・諏訪湖水質(全リン mg/l)は、環境基準は0.05mg/lであり、H18年度以降は環境基準を下回っている。 H18:0.043 H19:0.041 H20:0.042 ・公害防止管理者等を対象に、その責務、役割を再認識させることにより、公害防止管理体制に係る資質向上を図った。(研修会参加者141名) 研修会開催回数 H18:3回 H19:3回 H20:2回	a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要	
	最終予算額 (A)	千円	3,481	3,396	予算は、環境保全活動推進事業に統合	国庫・県単	県単
	決 算 額 (B)	千円	3,195	3,118		実施方法	直接
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	3,195	3,079		歳出節別内訳等	・報酬 :2,036 ・共済費:284 ・旅費 :224 ・需用費:183 ・使用料:312
	概 算 人件費	人	0.50	0.50		(単位: 千円)	
	概算事業費 (B(H21はA) + C)	千円	6,765	6,693			
事業実績	内 容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績	
	環境研修会の開催	回	1	1	1	自然・環境保全研究発表会の開催(信州環境フェア2008会場内にて開催)	
	公害苦情処理研修会の開催	回	1	-	-		
	環境科学研究発表会の開催	回	1	1	1		
事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明					
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・公害防止、環境保全のため継続した事業実施が必要である。 ・法、条例の規定による県の責務である。 ・県民や事業者を幅広く対象として事業を実施している。 ・平成21年度から環境保全活動推進事業に統合した。	
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	課題の総括	・公害防止計画の対象地域においては、環境質の一定の改善は見られるが、引き続き、公害防止計画を策定し、環境保全に係る施策を総合的、計画的に実施していく必要がある。 ・研究発表会や研修会の開催、企業を対象とした普及啓発の実施等により、職員の資質の向上や、事業者、県民による環境保全の一層の推進を図る必要がある。					